

優秀賞

ぼくの大切なもの

広島県 東広島市立高屋西小学校四年 田村 竜希

ぼくには、大切なものがいっぱいある。それは、ゲーム、ぬいぐるみ、家ぞく、おばあちゃん、おじいちゃん。

ぼくには、今心配な事がある。それは、おじいちゃんの事だ。ぼくにはおじいちゃんが二人いる。お父さんのお父さん。お母さんのお父さんの二人だ。その中でも、お母さんのお父さんが心配だ。今、お母さんの方のおじいちゃんが病氣だ。病氣の名前はじんぞうがん。じんぞうがんでもふつうのとはちがう。もうなならないと病院の先生に言われている。ぼくが大人になるまで、ずっと見守っていてほしいと、いつも心のそこからいっている。

五月におじいちゃんのたん生日パーティーをした。もう最後になるかもしれないから、親せきみんな集まった。おじいちゃんは、楽しそうにわらっていた。ぼくはうれしかった。

八月六日、ぼくは原ばくドームに行った。ぼくのおじいちゃんは、ひばく者だ。原ばくドームに行った時、母さんが、

「おじいちゃんが死んだら、ここに名前がのるんだよ。おじいちゃんは原ばくのけいけん者だからね。」と言った。その時ぼくは、おじいちゃん長いきしてと思った。

おじいちゃんは、今入院している。お見まいに行った時は、いつも名前をよんでくれる。いつもうれしいなと思う。今ぼくの氣持ちは、まだまだ長生きして、いろんな所に行こうねという氣持ちだ。

おじいちゃんとの思い出はいっぱいある。その中で一番心に残っているのは、水族館に行ったことだ。イルカショーや、アシカショーをいっしょに見たりした。すごく楽しかった。おじいちゃんもたくさんわらっていた。

今ベッドでねているおじいちゃんは、ぼくの名前をよんでくれるけどえ顔じゃない。ぼくは、おじいちゃんのエ顔を取りもどせるのなら、なんにもいらない。ゲームだって、マンガだって、ぬいぐるみだって、全部すててもいい。それくらい、おじいちゃんのがすごく大切だ。

おじいちゃんにも大切なものがある。それは、カープだ。おじいちゃんは、死ぬまでにもう一度だけカープがゆう勝するのを見たいと元気なころからいっていた。カープが今年ゆう勝したら、おじいちゃんはわらってくれるかな？だから、ぼくはカープをいっぱいおうえんする。じいちゃんいっぱいえがお

じいちゃんしないで。

